



令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果分析より

羽曳野市立西浦小学校

【はじめに】

令和7年4月17日(木)に、小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る目的があります。また、学校においても、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる目的があります。西浦小学校では今年度、全教職員が問題を解いた上でそれぞれが分析したものを元に校内研修を行いました。分析は全体で40ページ近くになりました。以下にその一部を示し、よりよい学習環境の構築に向けて今後の方向性を示すことができればと思います。なお、今回お知らせする結果分析は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

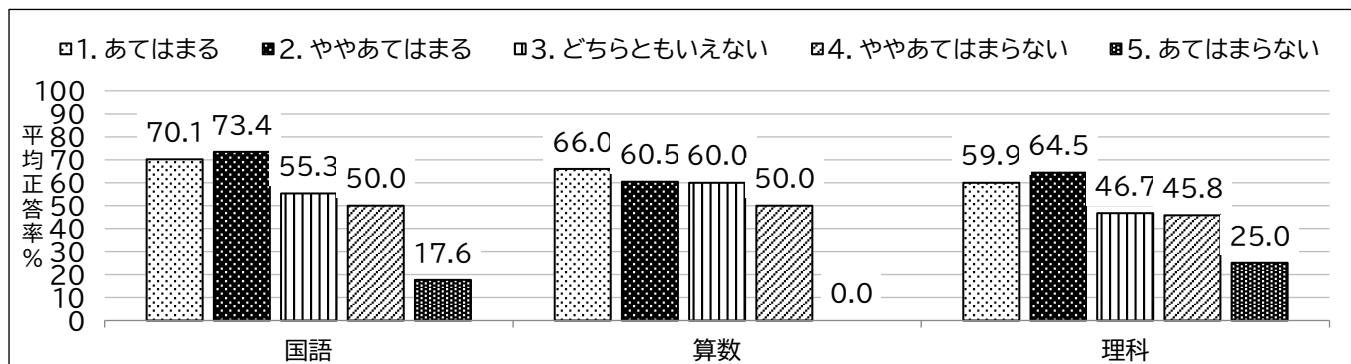
【学力状況調査の結果分析】

クロス集計より①(児童質問紙での回答と正答率を組み合わせたもの)

1 難しいことがあっても、あきらめない

	選択肢	国語	算数	理科
1	1. あてはまる	70.1	66.0	59.9
2	2. ややあてはまる	73.4	60.5	64.5
3	3. どちらともいえない	55.3	60.0	46.7
4	4. ややあてはまらない	50.0	50.0	45.8
5	5. あてはまらない	17.6	0.0	25.0

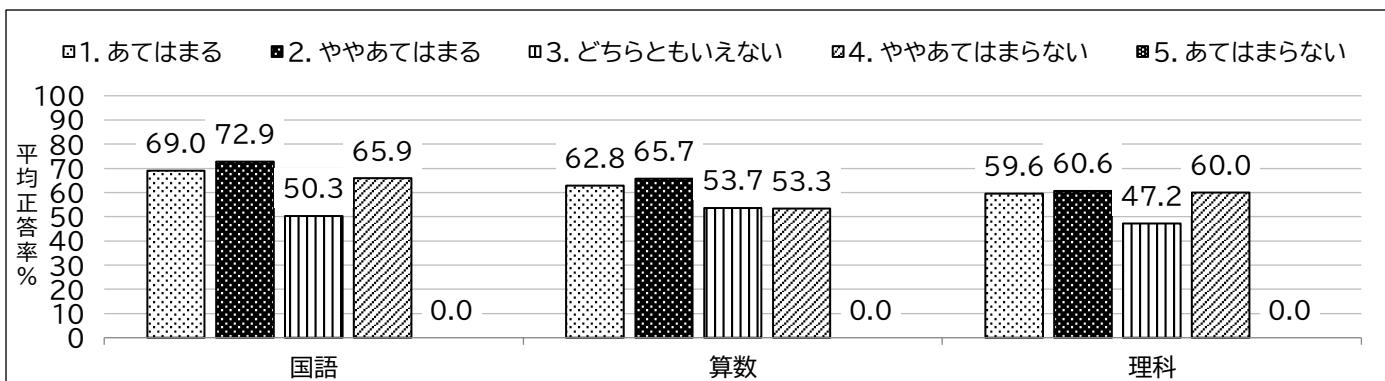
「あてはまる」
「ややあてはまる」
に回答した児童の
正答率が高い！



2 何事にも一生けんめい努力する

	選択肢	国語	算数	理科
1	1. あてはまる	69.0	62.8	59.6
2	2. ややあてはまる	72.9	65.7	60.6
3	3. どちらともいえない	50.3	53.7	47.2
4	4. ややあてはまらない	65.9	53.3	60.0
5	5. あてはまらない	0.0	0.0	0.0

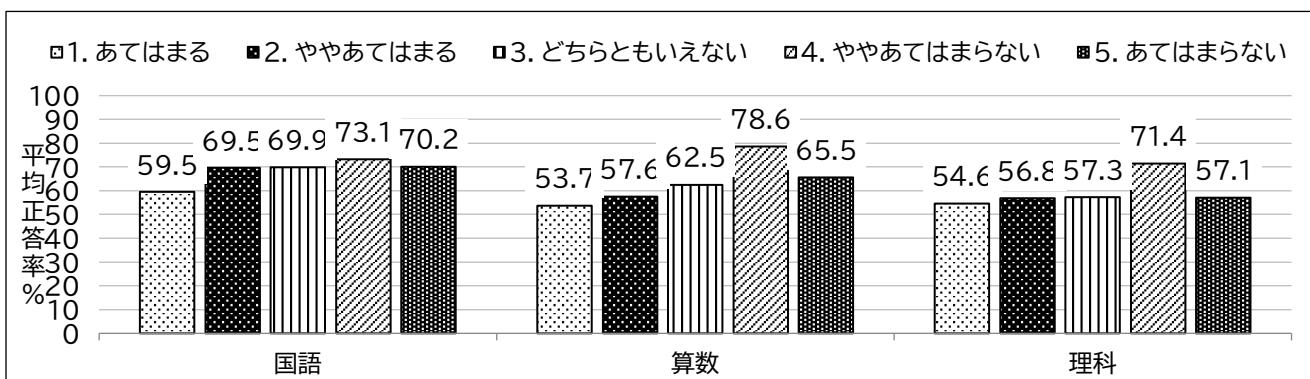
「あてはまる」
「ややあてはまる」
に回答した児童の
正答率が高い！



3 終わるまでに何か月もかかる計画に、最後までずっと興味を持ち続けるのは難しい

	選択肢	国語	算数	理科
1	1. あてはまる	59.5	53.7	54.6
2	2. ややあてはまる	69.5	57.6	56.8
3	3. どちらともいえない	69.9	62.5	57.3
4	4. ややあてはまらない	73.1	78.6	71.4
5	5. あてはまらない	70.2	65.5	57.1

「あてはまらない」
 「ややあてはまらない」
 に回答した児童の正答率
 が高い！



上記の結果から、「最後まで粘り強く取り組む」という前向きな姿勢のお子さんほど、学習内容の理解度が高いことが分かりました。私たちは、この「あきらめずに課題と向き合う力」が、お子さんたちの学力を伸ばす上で非常に重要であると再確認しています。

この「やり抜く力」を育むため、まず土台となる「読み書き計算」の基礎基本を確実に定着させ、自信を持って課題に取り組めるようにします。その上で、すぐに周りに頼るのではなく、問題と向き合い「自分ならどう解くか」を粘り強く考える「まなびタイム(ひとりで考える時間)」を大切にします。さらに、「まなびタイム(学び合いの時間)」では、友達の多様な考え方や解き方に触れることで、一つの答えに捉われない柔軟な思考力を養います。これらの活動を通じ、お子さんたちの思考力とやり抜く力を育んでまいります。

クロス集計より②

①読書習慣と蔵書数と学力の状況

平均との比較 赤↑ 青↓		(21)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか (電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)					
(22)あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか (雑誌、新聞、教科書は除く)	2時間以上	1時間以上2時間より少ない	30分以上1時間より少ない	10分以上30分より少ない	10分より少ない	全くしない	
	0~10冊	(国)64.3% (算)56.3% (理)70.6%		(国)14.3% (算)50.0% (理)35.3%	(国)50.0% (算)50.0% (理)35.3%	(国)40.5% (算)41.7% (理)40.2%	(国)25.0% (算)40.6% (理)23.5%
	11~25冊			(国)42.9% (算)25.0% (理)17.6%		(国)46.4% (算)50.0% (理)50.0%	(国)59.8% (算)53.1% (理)47.8%
	26~100冊	(国)28.6% (算)12.5% (理)29.4%	(国)100% (算)81.3% (理)100%	(国)71.4% (算)93.8% (理)82.4%	(国)67.1% (算)57.5% (理)64.7%	(国)61.9% (算)33.3% (理)45.1%	(国)60.7% (算)42.2% (理)51.5%
	101~200冊		(国)78.6% (算)75.0% (理)67.6%	(国)64.3% (算)56.3% (理)52.9%	(国)67.9% (算)65.6% (理)58.8%		(国)41.7% (算)29.2% (理)40.2%
	201~500冊以上	(国)92.9% (算)81.3% (理)88.2%			(国)50.0% (算)50.0% (理)70.6%	(国)75.0% (算)68.8% (理)69.1%	

今回の調査では、国語だけでなく算数や理科の問題を解くためにも、文章から情報を正確に読み取り、整理・分析する力、すなわち【読解力】が求められていることが分かりました。

実際、日頃から読書に親しんでいるお子さんほど、教科を問わず正答率が高い傾向も見られます。

学校としましては、お子さんたちが本に親しみ、読書への関心や意識を高められるよう、学校図書館の活用を一層進めてまいります。また、授業の中でも様々な本に触れる機会を設けるなど、全ての学習の基礎となる読解力を育むための工夫を取り入れていく考えです。

②学びに向かう姿勢と自然体験と学力の状況

平均との 比較 赤↑ 青↓	(16)分からうことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか				
	できている	どちらかといえば、 できている	どちらかといえば、 できていない	できていない	
<p>(25)これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察することがありましたか</p>	よくして いた	(国)61.9% (算)51.4% (理)64.7%	(国)62.6% (算)51.9% (理)50.7%	(国)45.9% (算)51.8% (理)50.4%	(国)60.7% (算)43.8% (理)50.0%
	ときどき していた	(国)70.7% (算)61.3% (理)69.4%	(国)57.1% (算)50.7% (理)44.4%		
	あまりし ていない		(国)51.8% (算)40.6% (理)41.2%	(国)7.1% (算)25.0% (理)23.5%	(国)35.7% (算)6.3% (理)5.9%
	全くして いない	(国)14.3% (算)50.0% (理)35.3%	(国)46.4% (算)59.4% (理)55.9%	(国)28.6% (算)12.5% (理)5.9%	

近年、お子さんたちが自然に触れたり、じっくり観察したりできる場所が少なくなってきたことに感じます。また、ゲーム機やアプリが普及する中、ご家庭でも意識して計画しなければ、多様な実体験の機会を持ちにくい時代になっているかもしれません。



さて、今回の調査結果を見ておりますと、『学びに向かう姿勢』は、実体験の中で失敗を恐れずに【試行錯誤】する経験と深く結びついており、その経験が学力の向上にもつながっていることが分かります。

この結果を踏まえ、本校では、授業の中でお子さんたちが自ら手を動かし、試行錯誤しながら学べるような体験的な活動を積極的に取り入れてまいります。また、お子さんたちにとって「遊び」は、工夫や挑戦を繰り返す貴重な学びの場もあります。学校生活全体を通じ、そうした「遊び」の中にある「学び」の芽を大切に育んでまいります。



【おわりに】

結果の分析を通して、基礎基本の定着と学びに向かう気持ちの持ち方の大切さを確認しました。一人ひとりの成長をめざし、今年度「学び続ける子どもの育成」を研究主題としてすすめている取り組みを継続していきます。全てのクラスで、5つの柱と10の具体的な方策「西浦授業改善スタンダード(令和7年版)」での取り組みをすすめています。

西浦小授業改善スタンダード～令和7年 5柱10策～

1柱 学ぶ環境の整備(①学習環境 ②学習集団)

- ①授業の開始前に、教室内の乱れを確認し、整えた上で授業を始めている。
- ②学び合う集団づくりに向け、個々の考え方等の価値づけを行い、尊重し認め合う姿勢を育む働きかけを積極的に行っている。

2柱 単元構想の熟考(③ゴール課題 ④学習計画)

- ③「何ができるようになるか」を見据えた単元課題の設定や指導計画の工夫改善を行っている。
- ④子どもが学習内容の全体や、課題解決の見通しをもって学習活動を進めることができる具体を提示している。

3柱 情報活用能力の育成(⑤情報収集 ⑥思考の可視化)

- ⑤多様な媒体や手段から情報を収集したり、適切に活用したりできる力を育む指導を日常的に行っている。(教科書、図書館資料、インターネット、地域の方々、ゲストティーチャー等)
- ⑥互いの考えを可視化できるアプリや思考ツールを活用しながら、学びを広げ深めるためのICT活用を進めている。

4柱 個別と協働の創出(⑦個別最適化 ⑧協働的な学び)

- ⑦子ども自身が選び取りながら課題解決に取り組むための手立てや教材等を多様に準備している。
- ⑧単元学習の中で、子ども同士が協働して課題解決に取り組む時間・場を意図的に位置づけている。

5柱 自己調整力の醸成(⑨ふりかえり ⑩価値付け)

- ⑨子どもが自らの学びを自己調整できるよう、具体的な観点を示した振り返りに取り組ませている。
- ⑩子どもの学習活動のよさを価値付けし、改善点を伝える指導を行っている。

学び続ける子ども ⇄ 学び続ける教師